

## 第4章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

沿線の地域特性に関して、入手可能な最新の文献その他の資料により把握した結果は下記に示すとおりである。対象事業実施区域<sup>(1)</sup>を含む周辺市町村<sup>(2)</sup>は、方法書と同様とし、山梨県内で、上野原市、道志村、大月市、都留市、笛吹市、甲府市、昭和町、中央市、南アルプス市、富士川町及び早川町の7市3町1村とした。

### 4-1 地域特性の概要

山梨県は、本州の中央部に位置し、北は埼玉県と長野県、東は東京都と神奈川県、南は静岡県、西は長野県と静岡県に接している。河川は富士川水系、相模川水系及び多摩川水系の3つの水系で構成されており、一級河川としては、秩父多摩山系を源として甲府盆地を流れる笛吹川や荒川、南アルプス山系を源とする早川、県西部を北から南に流れる日本三大急流の一つである富士川、大菩薩嶺を源として西から東京都に流れる多摩川、富士山周辺の湖水を源として西から東に桂川が流れている。その他、富士五湖のうち西湖、本栖湖、精進湖の3湖は二級河川である。

地形は、面積の約8割が山間部であり、甲府盆地を除き、平野部が極めて少ない。東部に金峰山を中心とした2,000m級の山々が、西部には赤石山系の主峰北岳を中心に、仙丈岳、甲斐駒ヶ岳などの3,000m級の南アルプス連峰があり、北部には八ヶ岳の主峰赤岳、南部には3,776mの靈峰富士山に囲まれている。県内総面積は、約4,465km<sup>2</sup>であり、このうち約78%が森林、約4%が宅地、約6%が農用地となっている。

山梨県の気候は、東日本型（中央高原型）に属しており、太平洋沿岸や日本海沿岸に比べて降水量が少なく、夏は暑く、冬は寒いえ、昼夜の気温差も激しい盆地特有の内陸気候を示している。甲府地方気象台の過去10年間の観測によると、年平均気温が約14℃、月別には約3℃～約25℃で変化し、1月が最も気温が低く、8月が最も気温が高くなる。年間降水量は約1,100mmであり、国内の年平均降水量に比べて少なくなっている。月別の降水量は9月が最も多く、次いで7月、10月となっている。一方、降水量が最も少いのは1月であり、次いで12月、2月となっている。

人口は、平成22年10月1日時点で、約863千人であり前年と比較すると約0.7%減少している。市町村別に見ると、対象事業実施区域を含む周辺市町村では、甲府市が約199千人で最も多く、次いで南アルプス市が約73千人、笛吹市が約71千人となっており、これら3市で県内人口の約4割を占めている。

産業次別の就業者数は、第3次産業が約62%と最も多く、第2次産業が約29%、第1次産業が約7%となっている。全国平均と比べると、第1次産業及び第2次産業の就業者の割合が高く、第3次産業の就業者の割合が低くなっている。

山梨県内には、富士箱根伊豆、秩父多摩甲斐、南アルプスの3つの国立公園、八ヶ岳中信高原国定公園のほか、四尾連湖、南アルプス巨摩の2つの県立自然公園が存在する。また、

<sup>(1)</sup> 「対象事業実施区域」：本章のみ「対象事業実施区域」は、方法書と同様に設定して記載した。

<sup>(2)</sup> 「対象事業実施区域を含む周辺市町村」：地域特性の調査対象範囲は方法書と同様とし、対象事業実施区域及びその周囲に位置する市町村のデータとした。

自然環境保全法に基づく自然環境保全地域はないものの、山梨県自然環境保全条例に基づき、13 地域約 2,144ha の自然保存地区のほか、景観保存地区、歴史景観保全地区、自然活用地区、自然記念物が指定されている。その他、種の保存法に基づき北岳キタダケソウ生育地保護区 38.5ha が指定されており、また、10 地区 2,032.2ha の風致地区が指定されている。